



企画設計製図

課題  
集合住宅

3年

担当：  
根上 彰生  
三橋 博巳  
石田 道孝  
柳田 武  
宇於 崎 勝也

遠藤 喜彦

都心に暮らすこととはどういうことか。これを考えるのが今回の計画の第一歩だった。都市には様々な人が色々な考えを持って暮らしている。その生活の器である住環境は画一的で、人々のニーズに応えていないのが現状である。臨海副都心青海地区は、都心から近く、これから住宅をはじめとする様々な施設が建設され、魅力あふれる場所になっていくであろう。私達は、これから住宅はどうあるべきかを考え、新しい提案をする。

指導=石田 道孝

企画製図の課題テーマは集合住宅で、規模を1ha程度の東京周辺地区と決められているだけである。後期の全期間をこのテ

ーマに当てているが、この期間を大きく二分して、前半は任意のグループを編成して立地の選定、土地・環境・地域社会などの調査、資料収集、基本構想の企画立案の検討を行い、後半は個人で基本設計を行い設計図書として仕上げることになっている。遠藤君は、他の3名とともに東京臨海副都心の青海地区を課題敷地を選んだ。周知のように、この地区は開発の見直しが行われ、未だに計画の線引きがあるものの未着工の空地が多くある。周辺の開発は大型小売店舗街区の一部、オフィス業務街区の一部などがすでに竣工している。これらに隣接するものであるが、都心における居住と臨海

部の開発に取り込まれた住居をどのように考えるかが、今テーマのキーポイントとなった。このため、サーベイを行い、臨海部の将来、複合用途による開発が進むと予測して、7haの課題敷地を業務、商業、近隣公園、アミューズ施設などと接点を持つ住居を提案している。SOHO、DINKS、ファミリーなど様々な住み方が可能な超高層居住棟の計画を階層群、垂直導線群の配置を提案し、周辺共同利用施設の計画を踏まえたゾーニング、構造、設備計画とともにまとめたもので、遠藤君の作品は大変よくまとまっている。具体的な住生活レベルの提案があれば、さらによいものとなっただろう。